京交山岳部報

No. 367　　'83　5月号

〔第1425回例会〕

飛騨の山と水芭蕉　(T)

日　　時　5月2日(月)～3日(祭)　九条車庫　早朝6時集合
(マイクロバスで出発)

コ　ー　ス　(一日目)　京都東I.C－大垣I.C－西洞…大日岳往復…蛭ケ野－白川郷－大窪泊(民宿　大杉　TEL 05769 6－1545)

(二日目)　大窪－高波(北陸自動車道)－加賀I.C…富士写ケ岳1等△…丸岡－福井北I.C－京都

担 当 者　高速　岡田茂久(TEL 3282)

費　　用　10,000円(1泊4食と交通費)

備　　考　すこし欲ばったプランです。雪渓が多いので防水の良い靴がいります。

〔第1426回例会〕　丹後半島　新緑の山

権現山と船津山　(R)

日　　時　5月6日(金)　5時　西京極体育館前集合

コ　ー　ス　京都－福知山－与謝峠－岩滝町－伊根町河来見…権現山…船津山－太鼓山－丹後半島縦貫林道－帰洛

担 当 者　鳥丸　大倉寛治郎(TEL 2343)　申込み〆切　4日(水)

備　　考　展望のよい二等三角点の山です。　1/5万図「網　野」

〔第1427回例会〕

飯降山△884m(大野)　日照岳△1751m(白山)　(T)

日　　時　5月7日(土)～8日(日)　名神　京都東I.C　6:00出発

コ　ー　ス　京都－福井－R158号…飯降山…R158号－大野－油坂峠－日照岳麓(幕営)…日照岳－名神大垣－京都

担 当 者　OB　伊藤潤治(TEL 463－4936)

備　　考　マイカーで行きますので連絡して下さい。

〔第１４２８回例会〕　**新部長歓迎山行**

長　老　ヶ　岳　　(R)

日　　時　　**5月22日**(日)　　8時３０分　西京極体育館前集合

担 当 者　　田中忠久(TEL 2351)　三橋　勉(TEL 2215)　大倉寛治郎

歓迎の辞　　前宮後山岳部長のご死去に伴い、今年度より岡田茂久氏が山岳部長に就任されました。氏の部長就任を歓迎しようと当例会を計画しましたのでご家族お揃いで賑々しくご参加下さい。駐車地より３０分で山頂に達するコースです。　費用　500円(マイカー燃費別)　申込み〆切　18日(水)

〔第１４２９回例会〕

釈迦嶺△1,175m(冠山)　　(T)

日　　時　　5月24日(火)～25日(水)　２４日　阪急西院駅前　１３時出発

コ　ー　ス　　京都東ー関ヶ原Ｉ.Ｃー揖斐川ぞい北上ー冠山林道分岐付近で幕営…釈迦嶺…高倉峠ー北陸自動車道ー今庄ー京都

担 当 者　　ＯＢ　伊藤潤治(TEL 463－4936)　マイカーで行きます。

〔第１４３０回例会〕　**美濃とっておきの一等本点**

大　洞　山　　(T)

日　　時　　**5月28日**(土)～**29日**(日)　　みぶ　午後２時出発

コ　ー　ス　　京都ー大垣ー156号ー郡上八幡ー鹿倉(泊)…△1034.6m大洞山

担 当 者　　本局　大槻雅弘(TEL 2266)

備　　考　　マイカーで行きます。詳細は担当者まで申し出て下さい。

費　　用　　7,000円

今月の集会

(机上講習)　地図の読み方ー　各自、定規と磁石持参のこと

5月10日(火)　下鴨寮

企画運営リーダー会

5月17日(火)　岡本宅

山の美化運動

岡　田　茂　久

昨年の秋頃のことであったが、某大学のクラブが百井峠附近で、空缶ゴミ等の廃棄物の状況を踏

査し清掃局にその調査書を提出したという新聞記事を読んだことがある。折からの〝京都市飲料容器の散乱防止と再資源化の促進に関する条例〟と、〝自然環境の保全に関する条例〟の京都を美しくする二つの条例がスタートした年でもあり、タイミング的にも申分がなかった。何所の岩影に缶が何個、何所の谷筋に家庭廃棄物がと克明に記録されたように記憶する。おそらく相当の人数と時間を費やされ調査されたと思うが、ご苦労さんとの想いともう一つどうも釈然としないものが残った。山の美化運動については、かっては山岳連盟においても各団体と協力し各所にて展開した経過もあったが、全くのイタチゴッコで、連盟という組織の運営の中では止む得ないものであったが、〝登山者の自覚をうながす〟という角倉会長の撤退の辞をもって挫折した苦い経験がある。たしかに弁当がらや空缶の散乱については、登山者の自覚にまたなければ根本的には解決しないものであることは言をもたない。しかし山で散乱しているゴミの中には、二種類があるということである。わざわざ車で山中の谷筋や岩影に家庭廃棄物や産業廃棄物までいのものまで捨てに来る者がいることで、こういうものについては登山者の自覚以外の問題ではっきり犯罪である。そしてこういう廃棄物の周辺は、類は類を呼ぶというたとえどおり、空缶や弁当がらが散乱しゴミ捨て場と化している。そして我々も又そういう物に対しては、行政の責任であるとして、マユをしかめながらも手付かずのままであるのも事実である。某大学のクラブのメンバーにしてもしかり、フレー！　フレー！　そこだよ、ここだよ。と応援しても行政は指摘された所は対処しても、全撤としてはままならないことで、そこでこのクラブが、ボランテアとしての活動には限度があるのは承知ながらも、その人数と日数でもっていくぶんかこの作業に当ってもらえたらと、ずいぶん虫のよい考えが頭をかすめたわけである。

〝濡れぬ先こそ露をも厭え〟ということばがある。朝の小道等で、たしかに濡れないまでは露を払って進んで行くが、一旦濡れるとエイままよということになる。山の美化運動でも同じことで、ズブ濡れ（ゴミ詰め）にならないよう、露（ゴミ）を少しづつでも払い落していきたい。露は太陽がでればいつしか消えるが、ゴミは放置すればますます増え、まったく仕末が悪い。いつか本当の太陽（市民の自覚）が高く登るまで、小さなタオルだが露に濡れた木の葉を一つ一つ拭いていきたいと思う。

当山岳部では幕営例会や山頂に登るたびに、あたりの清掃と各自のゴミの持ち帰りを励行している。皆さんの協力をお願いしたい。

それにしても、最近山を歩いてみても以前と比べ全体に美しくなってきているようだ。登山者の自覚と、どこかでやはり我々と同じ思いの人々の努力がだんだん実ってきているようで、全くうれしいかぎりではないか。

巻頭言表題に苦労するの記

岡　田　茂　久

近藤部長から山村部長、そして宮後部長へと連綿と引継がれ、毎月の部報の巻頭を飾った珠玉の名文〝山声雪語〟の後をうけて書きなさいということになった。〝山声雪語〟はその想い出の為にも前年9月をもって終巻とするとの決定で、私にとってはその名声を汚すことなくおえたのは幸いである。そして新たに思いつくまゝに何か書けばよろしい、巻頭言は部長の職務です。との励ましや冷やかしによしやったるでと机に向い、まず困ったのは表題をどうするかである。〝山声雪語〟という表題は全く完璧な名称で、それに互するものはないであろうが、私の意とするものとは少し異うようで、そこで気取って、○○抄・談・譜、少しくだけて語・記・争。うんこれはいいと思いついたのが〝山想雑記〟ところがちょっとまて、どこかで見たことがある。なんとなんと伊藤大先輩の〝山癖雑記〟。かの名文にしての表題、全く賞越至極の次第。凝り過ぎではと〝山道〟〝ケルン〟〝峠路〟〝ナデ道〟〝ケモノ道〟はては山の道具から山の語彙を色々並べてみたがもうひとつ、リーダー連に助け舟を求めてみたがまとまらず、さしているうちに原稿の締り日、かくて記念すべき初回が無表題となってしまった。ところが校正時に至って編集子より「無表題ではいかん、なんとかせ～」という強迫の電話である。小生のような浅学にして薄志弱の徒にとっては、全く面映ゆく、どこまで続くか心許ないのだが、千仞の谷に飛び降りる思いで〝山声雪語〟を継承さしていただくことにしました。各位のご協力をお願いします。　　（58.4.23）

第１４１８回例会

美濃国南端△613m　登行報告

伊　藤　潤　治

松浦勇次兄（ＪＡＣ岐阜支部）の参加を得、名神高速を関ケ原まで利用。伊吹山は姿を見せてくれなかったが、めざす養老山塊は晴ればれと暖かい色に染まっていた。Ｒ258号線を南濃町吉田で右折し、川ぞい道を伝いたづねたづねして、Ⅲ△613mの山名は、「シリタニ」（山頂名も谷名呼称がそのまま用いられている）で、登路は、マエゾワの裾からシリタニぞいにあると教えていただく。しかしミカンの樹林を縫う道は難かしく、マエゾワの裾でなく、コヤシ谷右岸（えん堤記号手前）のミカン畑の駐車場に迷いこんでしまった。

二人が身仕度をしていると、剪定作業に村人たちのご入来がつづいてあり、猟ですかと話しかけられたので、いまそこで教わってきた、「マエゾワ」から「シリタニⅢ△613mへ登る旨を答え

ると、「シリタニ」へは「マエゾワ」が近いけれど、道がわるい。それより迂回になるためちょっと時間はかかるが、向いの山の道は緩やかで分りよく、あれを登った方がよいのではないか、とすすめてもらった。

この地にきてから山名と山頂をめざす道をきいただけ、ここに迷い込んだおかげでその不足分の補充がつき、向いの山から循環コースとして歩かしていただくことになった。私たちにはありがたい村人さんのご入来であったが、近頃のミカンは安値だそうである。それでも剪定・施肥をおこたれないと嘆いてお出であり、生産者のご苦労に同情させられた。

その「緩やかな道」へは、えん堤の上辺でも水流のない荒しいばかりの川原をわたって谷筋道から山裾に取付けた。（えん堤へ出合う西北は、北コヤシ谷、西南は南コヤシ谷という）地形図に破線の記入があり、かっては柴刈が行交うた道であるという。緩やかというても、これほど遅々と緩やかなよい山道は甚だ稀であろう。

期待した展望は木立にさえぎられてあまりよい地点はなかったが、シリタニと南コヤシの峰頭の小景は美しかったので、汗ばんだ訳でもないのにティタイム。きようも湯を沸かし茶をたのしむ。キャンピングガスを使うようになって重宝したテルモスが使えなくなり、茶は美味しいけれど30分ほども時間を喰う。

この養老山塊でも北部には少しくらいの積雪はあろうが、南部のここにはまったく雪がなく、いまは落葉の茶褐色と、わづかなイワウチワの艶葉だが、萌える新緑と花期であったならどんなに目を輝やかさねばならない美しさだろう。

お茶のあと道には分岐や合流するのがちょいちょいあったが緩やかさはつづき、柴を山ほど背負って歩いてもあぶな気のないこの道の設計には感心させられた。

左に小広い緩斜面に陽が照り、木立のまばらな風景がひらけ、右から仁王さま状で立つ七本杉に見おろされたあと、美事な老杉が左右へ点在しだす豪放な景観にかわり、陶酔境らしくなってくれたのだが、惜しくもすぐ北コヤシ。つまりのぼり終ったのである。

そこには歩道（防火線）と林道が並んでいた。林道を北行すれば、去年12月10日「石津御岳と田代越え（第1405回例会、報告第364号）」の折歩いた蓑沢池、田代神社を通るようだ。歩道と林道の併行は200m余。この間の東面に、美濃の西南部から尾張の西半にまたがる濃尾平野及び揖斐、長良、木曽の三流の展望があった。この日は御岳さんの真白であろう麗姿の遠望がかなわず残念だった。

西面は、北コヤシから延びる山波の緑が何とも色あざやかだった。歩道を100mほども南行すると別れた林道は曲線を描いて寄りそい、林道わきには「架線監視所」の建物があった。そのどの歩道で可憐に茂っていた「ミヤコザサ」は美しい品種だ。私が1966年3月15日に養老の「I△859m（古名、多芸山）」を登頂した折の山頂は、このミヤコザサできれいに被われていた。いまはその思い出とともになつかしく眺められるミヤコザサである。

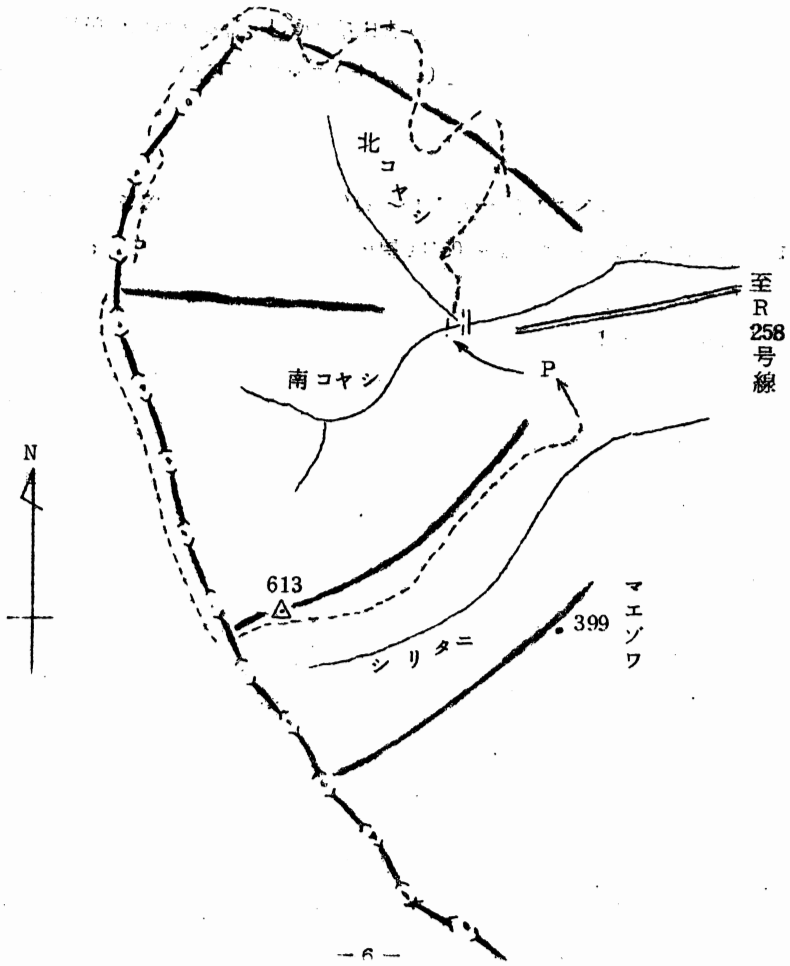
653mに向う踏跡を右に見て下って少し上ると左へ分け入る跡があった。これは南コヤシの詰めらしかった。また膨らみがあったりして、高きより低い三角点へ、一発必中は難かしいと思った。

だが、三角点の標石が略面上でなくてよかった。シリタニ△613mの山頂の展望は、落葉林が邪魔をしていた。知らぬ間に空は雪もよいであったが、腰をすえて約80分昼食をいただいた。

下山は、松浦勇次兄の「桑名5万(一色刷)図」にある破線略が、「マエゾワ」コースなので、これを辿るべく歩きだすと、"それはないでしょう"と明瞭な道が足の向きをかえさす。これぞ「急坂で道がわるい」といわれたシリタニコースである。ほとんど直線状だから評判どおり下り道でも汗をかき足の休養が必要だった。

登る場合には、樵刈道の分岐が相当あったから随分まぎらわしいことだろう。道が曲線を描きつつシリタニへ入ったが水流はない。間もなくえん堤地点につく。道をそのまま進めば駐車場から遠く離れるので尾根筋めがけてトラバースし、尾根筋を伝って駐車場のあるミカン畑の端に下り、愛車地点に戻った。

この日は気楽にミカン畑を通ったが果実のある季節の入山は遠慮すべき地域である。R258号線へは、コヤシ谷(ゴヤシ、グヤシの発音もきく)ぞいから集落を抜け、今朝通った川沿い道へ右折、左折をして走り出た。桑名市寺町の大黒屋に寄り、二人で串だんご等を買うと抽せん券がついてきた。行列までしてたのしかったのだが、スカッペ。



そのあとＲ１号線では雨と渋滞。しかし亀山までくると雨もやみ、前後に車影がなくなり、鈴鹿峠、田村神社前と快走し、喫茶「オアシス（土山町）」で一息入れ、名神を経て松浦勇次兄をおおくりし、めでたく帰宅。

時間記録　　3月6日

出発 6:30 ―Ｐ 8:50～9:25 ―休息 10:09～10:35 ―北コヤシ 11:13…シリタニⅢ △613m 11:57～13:15 ―Ｐ 14:13～14:25 ―大黒屋 14:59～15:17 ―オアシス 17:00～17:30 ―帰宅 19:00

1983年3月16日

第１４１９回例会

中国山地の山々

伊　藤　潤　治

亥ケ谷山△689m（木本），これはことし1983年度十二支会例会のあった山。この亥ケ谷山に参加して帰宅すると、広島の武田さんからのお便り（一月十二日消印）で、主人の風邪が全快せず十二支会は不参しましたが、代りに大朝町の猪子山を登ります。がとどいていた。

武田さんはお揃いのご参加で、いつもご懇意をたまわっているのに、今年は道理でお目にかかれなかった訳である。毎度遠路を物ともなされぬ武田さんのご情熱ぶりを思うと、埋合わされる猪子山は居住地区にあるから結構としても、十二支会ご不参についての激励には、玉岡憲明兄たち新宮山彦グループのご芳情がこもっている記念品「亥ケ谷山（太平洋原酒詰）」を謹呈する事が最上の慰問であると思ったのである。

しかし折角荷造りをしたのに、小包・宅急両便とも「われ物」「液体」ときいて取扱ってくれなかった。それではと俄かに中国山地行が必要になった。これが本行の口実であり発端である。この山旅をどんな山の登頂で飾ろうかいろいろ物色して、雉子ノ目山と唐代山に着目、この山名の由来や登山道及び3月19日から21日まで滞在できる旅館などを1月27日付で大朝町役場あてにご指導をあおいだ。ところが2月4日着の返信は、思いがけない武田さんからだからどうなったのだろうと驚きあきれた。

事の次第は、私の出信を役場では、山のことは武田さんだと武田さんへ回送してくれたものだから、武田さんを驚かした事は勿論だが、私もささやかな予定がばれてしまい、何ともばつがわるかった。武田さんが山岳党で名声高いのは本当にうれしかったが、教育委員会に頑張っておられたのには恐れ入った。とにかく私は、武田さんにご心配ご迷惑を及ぼす飛んでもない出信をしたものである。しかし貴重な町勢要覧、文化財ガイド、観光図、他に雉子ノ目山、唐代山、冠山七座の神道考古学資料、別に武田さん方からの雉子ノ目山カラー写真等を拝受し勉強できたのはありがたかった。その文化財ガイドにより、出発が午后になったのを幸い、第一夜は天狗シデの観賞ができる樹

下の幕営を念願した。

3月19日14時すぎ、上島和彦、賀嶋増造両氏と、名神京都南から中国勝央、ここで上島氏にハンドルを交代してもらい、千代田で下りたのが18時30分。R261号線へ出たところで天狗シデへ近道である蔵迫から志路原を経て田原への道路事情をたづねた。答えは、あちらは積雪のため無理だから大朝経由がよろしい。であった。大朝経由であれば武田さんに電話でのごあいさつではすませないので、そっと参上する。

どうもこんな律気はよくなかった。今頃から雪の中で寝なくてもとあきれた。武田さんご夫妻に天狗シデ道まで先導させてしまった。それなのに幕営は天狗シデではなく集落内の炭焼窯でよぎなくされてしまう。空には月齢4.4の光芒が冴えていた。

3月20日、朝食のあと天狗シデに向う。天狗シデとは「文化財ガイド」によれば、「熊城山(998m)の東斜面、標高約650mの広さ約30アールのゆるやかな谷間に大小約40本が群生している。天狗シデの群がるヘビが乱舞するような曲りくねった樹形は一種異様でもあり、数十本の大樹が谷間をおおう景観は見る者を圧倒する。

天狗シデはイヌシデの一種であり、世界でただこの地にだけ自生する天然の創った芸術品である。見頃は芽吹く春を筆頭に落葉した秋であろうか。夏の涼風が樹下をわたるころもまた風情がある。」

以上であって、群生地に立った景観はまさに天然記念物中の秀逸物であると思った。天狗シデの自然美に感動させられ訪れてよかったと満足できたが、幕営位置の誤認から天狗シデまでを5～600mと思ったが、実際は1キロ以上もあって武田さんとの約束8時が8時47分と遅刻。昨夜につづいて呑気者はご心配をおかけしてしまった。

早速武田さん宅の玄関へ幕営装備をおあづけしてご夫妻に同乗していただき猪子山の登頂をめざす。途中で登路について枝の宮八幡神社宮司にご相談いただくと、そのコースは山名と同名の集落を経る市木からであって、正面登山道かも知れないのだが、これは広島県外である。せっかく武田さんとご一緒するのだからたとえ山名の起因その他が石見国にあっても、本日は安芸国のコースをたどりたいので、こちらでのコースをたづねていただいた。

大朝町の登路は三本ほどあるようだが何れもあまりよくないそうである。その内選ばれた道は、バス停、高原口を左折して県境尾根を踏むコースであった。

高原口とは、国515.4mから県境寸前まで林道をもち、破線路で聖岩谷へ越える道の岐点である。その林道面だけなぜか積雪がなく、二又地点まで乗入れ駐車，ただちに県境の積雪へ足形をしるしていくが、期待した県境を明らかに区切る伐開きが出ない。武田さんにうかがうと、ほとんど手を加えないとおっしゃった。まあー、自然に可愛がられてちょっぴり泣かされてみましようと、コブを越えて下ったところへ、左に積雪2～30cmを被った林道が詰めていた。

これも猪子山登山の道に数えられ、もう一本は、登という集落から一の谷越えの破線路だろうか。その窪から作業道が尾根を伝いはじめたので、藪から開放された。道は県境をたどり島根側だけに伐植面が点在し、展望をたのしませた。

少憩をca750m峰にして、その裾につくと、道は深雪のため不明というよりここで途絶えてい

るようだった。だからca750m峰には、深雪と藪のため小粒ながら一包ふかされた。しかしその甲斐充分の北望で、ご夫君托郎氏からあれがコーモリですよとダンディーな奴をご紹介いただく。登らねばならぬ山とのうれしい出合があった。別に、タニイソギ(マンサク)、フクレシバも教わった。

猪子山東稜にかかると、南面に山肌が顔を出していた。そこをご夫君托郎氏はたくみにご登攀になっていく。つまり浅瀬を渡るに似た歩行術であって、無手勝流とでも称すべき鮮やかな雪上技術であると感心した。うれしい好天ながら、くされ雪とうるさい藪をはねて、猪子山に登達し口実の物を差し上げ、めでたく登頂を祝福しあい萬々歳裡に念願を果たす。

△は平面と多積雪のため未確認。展望も木立を透かし寒曳山が大きくあった。往路を下山し林道を詰めて県境稜のⅣ△753.7mの偵察に入る。小道がつづいているようにみえたが気がのらなかった。そのあと登頂報告のため、枝ノ宮八幡神社を参拝し、武田さん方にもどり以下いろいろ大変なお世話になる。

ドウゲン山(阿佐山)は一等三角点をもつためと、山名(阿佐山)が「日本山嶽志」に丸瀬山の別称とあることに興味があり、畳山は大朝町の最高峰だから山登りで大朝町へお邪魔して、その最高峰畳山の不登は許されまい、等がこの二山を選んだ理由である。

こちらにきて武田さんからいただいた「西中国山地(桑原良敏著)」の阿佐山をみると、北峰と南峰とに分かれていて、△1218mは南峰であって、南峰名についての提出資料は、浅山(1700年代古文書)『国郡志寄記』広島県。 阿佐山『芸藩通志』広島県,国土地理院。 東ドウゲン山(深山)広島県。 ドウゲン山(移原・高野)広島県,である。この書の「阿佐山は北峰・南峰を含めた山名として使用する」はよろしいのだが、写真の説明でドウゲン山(阿佐山)、阿佐山(ドウゲン山)は、どうも念が入りすぎて紛らわしく思える。

この点、「阿佐山概念図」は△1218.2mをドウゲン山、・1210mを同形山と明示してあり納得させられる。ちなみに武田托郎氏は阿佐山よりまるせとかまるせ山の名をお使いであった。

3月21日、その日は未明から可愛(えの)川の音かときいていたのは雨であった。雨でも私たちは武田さんが用意して下さったお弁当をルックザックに詰め頑張って優等生になってきますと出発,大谷からカタラ谷林道へかけこんだが、積雪のため約100mでストップ。私は先登者が雪を踏んでいるものと想像し、武田さんにもきいてもらってきたのだが、路面は汚れない処女雪が占めていた。大谷公民館前にもどり駐車許可を大町胡治郎さん方でもらい、さあー これから張切ろうという時になって、賀嶋氏が不調で登行不能だとびっくりさせる。

彼には気の毒であったが彼を残して上島氏と二人で登頂することにした。カタラ谷林道は標高、1000mまで走行可能ときいた。輪かんを約660m地点でつけ、雨合羽を着て傘をさしての雪上歩行になる。林道終点で斜面とつらなるスノーブリッジをのぼって県境稜(猪子山越え地点)につく。ここで風雨の山頂にそなえるべく昼食を風影でとる。ところが喰べ終ると皮肉にも俄かに青空がひろがってあっという間に天気は好転し実にうれしかったが、歓ぶよりもこの急変には唖然としてし

まった。雨合羽と傘が不用になり快適だった。白い斜面に立ちつくすブナの純林は、美事の一語につきるのだがその幹を道標代りに次々と塗料で汚してあるのは見苦しく、景観を甚だしく傷つけ勿体ないことである。

好天になるとくされ雪がつらい。北面をねらうといくらか沈まなかったが、雨にゆるんだ雪面はおびただしくもぐりあごが出そうだ。山はしんどければしんどい程妙にたのしい。登りついたドウゲンの山頂は思いがけない快晴にめぐまれ、遠く三瓶山や猿政山がのぞめ痛いような幸福感で身をもだえさせた。

1218.2mの△は雪に深くおおわれていたが、測量棒が立ち易々と確認させてくれた。猪子山越へ下り畳山に向うその県境べりの広島側地形土質は、ちょっと珍らしく火口ででもあったようにみえる。木立が島根側にならぶナナマガリ谷の水上部は、一木もとどめぬ広い雪原状の窪で畳山へ横断行を思いつかせる眺望である。

その明るく開けた空間を右にして登った・1033mには鎌投山の標があり雪がなくクマ笹帯であった。畳山への下りは、積雪豊富な島根側の木立をぬい踏み抜いたりしたが、上りは緩やかでもあるが雪がしまったかのびのび辿る。畳山も雪面に測量棒の頭がのぞいていた。東面は皆伐されて吸い込まれそうな雪の大斜面がオカノオク谷へ急落しえべせー。

下山は西南隅の露岩から南へとり、架線場、作業道を経てカタラ谷林道へ出た。林道の融雪は急でもう輪かん無用の道になっていた。天佑と登頂とで身も心も晴れやかに8時間ぶりの大谷へもどると待ちかねていた賀嶋氏も声をあげて登頂を祝ってくれた。

しかし山登りにきて自分だけ登れなかった悲劇の主人公の祝辞は傷ましく、不運のなぐさめようを知らない。とにかく歓喜と哀愁をちりばめたこの日のドウゲン山と畳山の登頂は、私には得難い秘宝的な記録である。

〔コースタイム〕

大谷 9:30…林道終点 11:08…昼食 11:28～12:15…ドウゲン山 13:47～14:20…鎌投山 15:25…畳山 16:00～16:15…カタラ谷林道 17:20…大谷 18:35

唐代（からしろ）山についても、またいろいろご高配をたまった上にわざわざ番ノ目の和田敏一氏へご先導・ご紹介をいただいた。和田さんからはご親切な概念図を作成していただき、武田さんには休暇をとってご同行下さったのである。晴れた空に立つ雄子ノ目山の英姿をあおぎ、ウグイスの初音がながれ、実にのどやか裡に和田さんの労作図に従って、和田、石田、藤田の各家を左にみて林間に入り分れを左にして右寄りでいくとT字点、左折した左側は檜の二年生が並び立つ広場。右に分道一筋を経た先で右折していくと「小さな峠」、和田さん前が9時で「小さな峠」は9時13分着、はやくも少憩。武田さんから、たお、は峠、えべせーが恐しい、はつめいな人、精勤な人、また和田さんの説明に出た「道はこってある」の、こってはかいこむ、かいこう等の意を教わった。

方言は深い味のこもるたのしい言葉である。まだ、ろくなほとり刈りをメモしているのだが申訳ないことにその意味が思いだせ、それから美林中の道を行くと「（下）、うちの松（20年生）」

上記の（下）は下段の意らしい。これが右で「元焼場あと」これは左で、ここを左折すると、杉20年生、檜13年生の造林地帯。右折点付近に「雪」を経て「宮庄理事長さんのまむき」「上部に檜2年生がある。（和田さんの）うちの造林予定地」、その斜面上には「松の50年生、5～6本」「ストーンサークル、中の分」ここで9時45分。

のぼりがつづき、石垣をめぐらし鏡と幣を浮き彫りした碑を祀るストーンサークルに10時10分着。木間越しにドウゲン山、畳山が輝やいていた。それからの北行は、こってない道になりいささかうるさかったが、左右の眺めはすばらしい。

この日の使用図、生田2万5千は唐代山の西南に座る790余m峰をのせていない。これほど顕著な隆起をなぜ省略したのだろう。唐代山は南西尾根で私の好みにすこし合ったが、登りつめた814m△地点は雑木林でわづかに雄子ノ目山がみえるだけの美事な藪山であった。11時45分につき、雪上で武田さんのお心のこもる美味しい弁当をいただいて、12時45分唐代の山頂を辞去、和田さん方に下山14時15分。このあと天盤門別神社をご案内いただいて武田さん方へもどった。

なお惜しくも割愛したが、予定してきた雄子ノ目山には知人方が私たちのために登山道をこったり、山頂に展望用ハシゴを設けてお待ち下さった由、まことに恐縮である。

以上のようにこの度の私たちは、武田さんのご友情にすっかりあまえ、身にあまるご招待、ご饗応をたまわってまことにありがたい山登りをさしていただいたのである。その上に武田さんご夫妻のお見送りをいただいて、私たちは心からの御礼を申し上げ、15時20分辞去、帰路についたのであった。

1983年4月10日

例　会　報　告

例会No.	目的地	月　日	天候	担当者	参加者	記事
1418	美濃国南端 613m	3月　6日	晴	伊藤　潤治	松浦　勇次（JAC岐阜支部）	別稿報告
1419	中国山地の山々	3月19日～22日		伊藤　潤治	上島　和彦 ゲスト参加 賀嶋増造氏ほか	別稿報告
1420	金糞岳	3月25日	晴	大倉寛治郎	大倉　和寛（小5）	息子と共に中津尾根1053m地点まで行ったが、体調をくずしたので引返した。コウモリの頭より残雪があった。
1421	体力測定会	4月　3日	晴	吉田　武	大槻　雅弘 岡田　茂久	京都府国体予選の予備戦ともいうべき、登山者体力測定会に約

					（オープン参加） 三橋　勉 津田　実 荒田又之助 三橋　功 （小６）	６０名という多数の参加者があり、京交からも一度チャレンジしてみようと参加しました。結果はとてもハードな苦しい行程でしたが参加することに意義があるとガンバリました。

雑　　報

4月集会報告

出席者　（ＯＢ）津田、奥村　　（九条）古市、田中
（本局）武田、大槻、方山、和田、三橋　　（梅津）吉田
（高速）岡田　　（烏丸）大倉　　（洛西）広瀬

机上講習の地図の読み方、　前回（２月集会）の宿題を皆さんに順次回答していただく。特に1／2.5万の地図と1／5万との使い分けというか、錯覚にとらわれないようにしたい。
それから「磁北を0°として測ると何度か」という問題で6°40′を入れるのか入れないのかしっかり問題を見きわめる必要がある。等々…　色々な勉強になった。

ワッペンの追加注文について

先日のワッペンが再入荷しましたので、ご希望の方は　管財課　大槻（TEL　2266）まで申し出て下さい。

訂正とおわび

先月号の第1424回例会　美濃△1057 m（点名　深谷）の所在地が、近江の国でした。ここに訂正しておわびいたします。

部員異動

錦林へ　武田喜久郎（本局）　　高速へ　大沢　泰（本局）
本局へ　鎌田　利雄（九条）

部費受領

５８年度分　（ＯＢ）田中定勝、畑　照人、石田和男、北林修一、南口雪男

部報講読料

土地区画整理協会ワンゲル部　（橋本）　¥3,000.－
宮後純子　¥4,000.－

帆布・濾布
テント・シート
雨合羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
TEL 801-5331(代)

名古屋営業所
名古屋市西区児玉町7－30
TEL 521-7541代～4

テニス用品
スキー用品
山用品

交通局の皆さん
とりあえず 京菱へ
満足のいくようにします

京菱運動具店

下・大宮松原上ル
TEL 801-1331

一年中、山用品だけの
プロショップ

おかげさまで創業1周年を迎え、
店も大きく、商品も充実させて
頂きました。もちろん開店以来の
全品徹底バーゲン価格も続行中！

LOG CABIN

ログ ケビン

京都市中京区御幸町通蛸薬師南入
☎(075)221－7569 〒604
(寺町の一つ西の通りの錦上ル東側
阪急河原町(阪急河原町)より徒歩3分)

真の専門店として
好日山荘は前進しております
山とスキー用具の
ことなら御まかせ下さい
確信ある用具を
確信ある価格で・・・・

KOJITSU

好日山荘

河原町六角下ル東入
TEL 241－1731

山の本

山岳書 電話／本にて
無料配送

ゆかり書房
075(801)8333

昭和58年5月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内
京交山岳部

お知らせ

今度、当チロル店舗は近代ビル改築計画に伴い、一時立退きと相成りました。
改築期間中（約1年間）は、本店2階にチロルコーナーとして継続営業いたします。

チロル

移転先　本店2階
京都市中京区西ノ京円町24
ダイヤ運動用品株式会社

まかせて下さい…ネ
山とスキーのことなら…

☆在庫豊富にとり揃えています
☆山の道具はゼヒ御相談下さい

山とスキー専門店
ビッグ ホリイケ

河原町店　上・河原町通丸太町東入
TEL 222－0363

御婚礼
御引越
ぎおん菊水 専門

ぎおん菊水運送株式会社

山科配車センター
京都市山科区西野山階町12－12
TEL (075)581－3101
本　社
東山区大和大路通四条下ル　541－2345
鴨川営業所
中京区室町二条上ル　256－3059

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター
厚生会指定
サンコークラフト
西島輝雄

左.川端通丸太町下る下堀町88
TEL (075)771－3442

山とスキーの店
京都 あるむ

京都市中京区新町三条上ル
075－255－0288

HIKE & CAMP

この用具の事ならコニシが一番です！
御来店ありがとうございます

山とスキー レジャー スポーツ ショップ
そして
海の
コニシ

中・二条通河原町西　TEL 231－1202